

# 第7回「こどもたちへの環境学習を進めるWG」要旨

日 時： 令和2年1月22日（水）10:00 から 12:00

場 所： 高知県香美農林合同庁舎 1F 大会議室

参加者数： 14名

## 1 物部川流域学習講座一覧表（案）について

事務局より、資料1、資料2に基づき、第6回WGで作成することとした相談先リストである物部川流域学習講座一覧表（案）について報告し、意見交換を行った。

JA高知県や土地改良区等の掲載や写真等を用いて学校が学習状況をイメージをしやすい工夫をする等の意見があり、対応可能な箇所について、幹事会までに反映させることとした。幹事会までの対応が難しい項目は、適宜修正し活用しやすいリストにすることとなった。

### 【主な意見】

- 豊かさを知らない世代に伝えるためには2時限必要。水や食べ物など子どもに身近なものを交えて森川海のつながりを教えている。
- 学校が川に行ってはいけない（川は危険な場所である）となっているため、取り組みにくい。また、フィールドワークではトイレの問題がある。  
⇒子どもだけで川に遊びに行かないよう指導している。（保護者同伴、社会科見学で行くことまでは禁止していない。）
- 配布は、校長会で趣旨や目的を説明したうえで、学校に配布するのであれば可能
- 環境学習の発展的な展開は、担当の先生によるところが非常に大きい。先生も忙しいが、積極的に取り組んで学びを発展させる先生もいるが、中には丸投げする先生もいる。
- 物部川の水を利用している農業の講座がないため、掲載した方がいい  
⇒土地改良区も取り組んでいるため、事務局から掲載の依頼をする。
- 防災教育の勉強内容がダムだけであるため、「自分の身を守る方法」「物部川で工事する理由」などのソフト面等の講座を掲載した方がいい。  
⇒防災教育は、指導要領に基づいて学校が授業に取り組みやすいように県の学校安全対策課と一緒に、「指導計画書」「板書計画」「教員用の解説書」を物部川流域、仁淀川流域それぞれで作成する取組を進めている。現在は、モデル校で取組を進めており、最終的には県から市町村の教育委員会に教材が通知される予定。
- 一覧表に写真を追加して教員が状況をイメージしやすい工夫をした方がいい。  
⇒掲載できる写真があれば提供して欲しい。作成した後も、適宜、使いやすいように見直しを行いたい。

## 2 今後の環境学習の推進について

事務局より、資料3に基づき、今後の環境学習の推進について意見交換をおこなった。

### 【主な意見】

- 環境学習の進め方も防災学習と同様の方法があると思われるが、今回の場合は、第1に相談先リストで広く知ってもらいきっかけ作り。そして次の段階として、総合学習以外（学習指導要領への対応）で取り組みやすくする方法になると思う。今後進めるうえで、手段と目的を明確にした方がいいと思う。
- 環境学習をしやすい場所（湧き水が出ている場所など）も必要。
- 川遊びなどの伝承は、親世代は体験が少ない世代であるため、親も巻き込んだ取組も必要。参観日など保護者が来ている場で授業をすると保護者にも理解してもらえる。結果として、保護者の川に対する認識が変われば、学校で取り組むハードルも下がる。
- 子どもたちに川遊びの楽しさを伝えるためには、今後も環境学習を進めていく必要がある。

- 今後、子どもに川遊びを教える立場の人（指導者）も高齢化で少なくなるため、県として仕組み作りが必要。
- 教室に水槽を設置して、生き物を観察することでいろいろな発見があり、生き物の生態を学ぶことも大切。

### 3 その他

- 担当の先生や校長の意向に関わらず、環境学習を推進するためには、高知県として環境教育にどのように取り組むかが大切。